

課題番号：デブリ-220

課題名	廃炉プロセス「燃料デブリ取り出し」 検討対象「取り出し工法・システム」 課題「閉ループの確立」	時間軸情報	汚染水対策				
			使用済燃料プールからの燃料取り出し				
段階	Design		燃料デブリ取り出し		1.2		
			PCV/RPV/建屋の解体				
ニーズ	望ましい状態とその理由		輸送・保管・貯蔵				
			処理・処分・環境回復				
		(参考) 関連する研究課題					
1	水位をコントロールする手段を確立したい	●中長期ロードマップの目標工程に従って 2020 年内には原子炉建屋を除く建屋内滞留水の処理が完了していると考え、原子炉建屋で滞留水を回収して浄化した後に冷却水として再使用する循環冷却系が成立している必要がある。 ●燃料デブリ取り出し時においてはデブリの加工等により液相部の放射能濃度が上昇する可能性があるが、これらの汚染水の地下水への流出を防ぐために、原子炉建屋内の滞留水水位低下を進めるとともに、S/C内の水位低下について検討を進めることが望ましい。	【実施されている研究課題】 廃炉・汚染水対策事業「原子炉格納容器内水循環システム構築技術の開発」 廃炉・汚染水対策事業「原子炉格納容器漏えい箇所補修技術の開発」 廃炉・汚染水対策事業「原子炉格納容器漏えい箇所の補修技術の実規模試験」				
			【検討されている研究課題】 特になし。				
2	PCV漏洩部を特定し、補修したい	●多重のバウンダリを確保するために、PCV 下部補修等による止水の検討を進めることが望ましい。その際、PCV補修技術等もかんがみて、市水技術の適用による漏洩抑制と冷却水の循環・浄化系を組み合わせたシステムも含めた閉じ込め機能の在り方を検討することが望ましい。 ●止水を実施する際にも、PCV 内から原子炉建屋内へ冷却水が漏えいした場合に備えるために、原子炉建屋内滞留水と地下水の間の適切な水位差の設定を検討することが望ましい。	【実施されている研究課題】 廃炉・汚染水対策事業「原子炉格納容器内水循環システム構築技術の開発」 廃炉・汚染水対策事業「原子炉格納容器漏えい箇所の補修技術の開発」 廃炉・汚染水対策事業「原子炉格納容器漏えい箇所の補修技術の実規模試験」				
			【検討されている研究課題】 特になし。				
関連する課題							